

令和元年6月27日現在

機関番号：32427

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12363

研究課題名(和文) 地域包括支援センターの保健師による地域診断活動の推進要因の分析 - 量的・質的な分析

研究課題名(英文) Analysis of Factors Influencing Promotion of Community Diagnostic Activities by Public Health Nurses in the Comprehensive Community Support Centers: Quantitative and Qualitative Analysis

研究代表者

松永 洋子 (Matsunaga, Yoko)

日本医療科学大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：90709023

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：地域包括支援センター保健師の地域診断の手法の活用とその手法を活用する能力に関連する重要な要素を、看護師との比較において明らかにすることを目的とした。地域包括支援センターの保健師と看護師には、地域診断実施の手法と能力に多くの共通点が見られた。共通点は、地区視診の実践と地域での活動を通じての情報収集の実施であった。違いが見られたのは、看護師は事業を展開する中で地域課題を把握していたが、保健師は地域課題の把握にとどまらず課題の解決の方法を視野に収めて地域診断をしていたことであった。問題解決を視野に収めていたことから、地域の様々な社会資源を活用する能力も、保健師の地域診断能力の重要な要素であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、包括センターの保健師と看護師に焦点を当てて地域診断の実施と能力について、両者の共通点と違いを明らかにした点にある。実際に実施している地域診断の分析手法では、看護師は保健師と協働して地域での事業を通じて地域課題を把握していたが、保健師は地域課題の解決の方法も視野に収めて地域診断を行っていたことがわかった。地域診断実施能力では、保健師は地域の様々な社会資源を活用する能力を重要視していた点で特徴的であった。今後は、本研究の成果を活用して、包括センターの看護師と看護師との地域診断能力の向上と診断活動の推進のため研修内容を充実させることができると考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this analysis was to clarify the key elements of a community diagnostic approach used by public health nurses in the Comprehensive Community Support Centers (CCSCs) and their ability to use such an approach by comparing them to CCSCs' registered nurses. CCSCs' public health nurses and registered nurses had many skills in common in terms of approach and ability to provide a community diagnosis. The major commonality was that they collect information through community inspections and other community care support activities. The major difference was that, while registered nurses grasped community problems by providing community care support services, public health nurses performed community diagnostic activities not only to grasp community problems but also to find problem-solving solutions. As public health nurses sought solutions, the ability to use a variety of community social resources was one of the key elements of public health nurse's community diagnostic skills.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：地域診断 能力 地域包括支援センター 保健師 看護師

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

地域診断は、行政の保健師が管轄地域を基盤とし、実効性ある公衆衛生看護活動を実施するために、従来から、地域の個々の健康課題とともに地域全体の健康課題を発見、評価し、それを総合的に解決のための施策に反映させる手法として用いられてきた。保健師が活用する地域診断の理論には、ペンダーのヘルスプロモーションモデル、グリーンのプロシード・プロシードモデル、アンダーソンらによるコミュニティ・アズ・パートナーモデルなどがある(アンダーソン、他 2011)。日本の看護の基礎教育や現場においてはコミュニティ アズ パートナーモデルが、加えて現場では日本老年学的評価研究チームの地域診断システムや厚生労働科学研究費補助金長寿学総合研究事業で開発された予防 Web アトラスも用いられている(森山、2015)(山谷ら、2014)。

しかし、地域の健康問題が多様化・複雑化したり、保健師の分散配置など、保健師を取り巻く状況が大きく変化したことにより、地域診断を軸とした行政保健師の活動が展開されにくい状況になっている。このような背景から、行政保健師の活動の見直しが 10 年ぶりに行われ、2013 年に厚生労働省より「地域における保健師の保健活動に関する指針」が出された。その指針の中では改めて地域診断の実施の重要性が明記されている。2006 年の介護保険法の改正を受けて設置された地域包括支援センター(以下、包括センター)は、その後のたび重なる改正において、地域高齢者に関わる包括的なケアを提供する中核機関としてその機能強化が謳われた。具体的には包括センターには設立当初より主任ケアマネジャー、社会福祉士の他に、保健師または地域ケア・地域保健等に関する経験のある看護師が唯一の医療職として配置が義務付けされるようになった。

このように地域診断を強化するための施策が導入されているにもかかわらず、行政保健師とともに包括センター保健師も地域診断を実施するという専門性を十分に発揮できていないと指摘されている(川原ら 2014)(櫻井ら 2011)。包括センターの保健師と看護師がよりよい地域診断を行うことができるよう支援方法を開発するため、地域診断の手法の活用と実施能力の重要な要素を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

包括センター保健師における地域診断の手法の活用と地域診断の手法を活用する能力に関連する重要な要素を、看護師との対比において明らかにすることであった。

3. 研究の方法

(1) 文献研究

医学中央雑誌 Web 版を用いて過去 5 年間(2014 年～2019 年)に発表された論文の検索を行った。「保健師」「地域診断」をキーワードとして「原著論文」という条件で検索した。

(2) 実証研究

対象：

東京都内及び東京都近郊の市町村等の包括センターに勤務する看護職歴 6 年以上の保健師及び看護師であった。

調査内容：

()先行研究等から抽出した地域診断実施に係る 17 項目の妥当性、()実際に実施している地域診断の分析手法等、()対象者が考える地域診断実施能力、であった。

調査方法と時期：

半構造化面接を実施した。調査期間は 2016 年 12 月～2017 年 7 月である。

分析方法：

()については、妥当または必要と回答について、その数を数えるとともにその理由を質的に分類した。()と()については、逐語録を KH Corder3 を用いて分析した。具体的には、「実践している地域診断方法」および「地域診断実施能力」に関わる頻出単語を抽出した上で、頻出単語間の関係性を分析した。

4. 研究成果

(1) 文献研究

論文の検索を行った結果、41 編が抽出された。内訳は、「行政・保健所・市町村」を対象とした文献が 16 件、「教育や教育機関等」に関係する文献が 16 件、住民や民生委員、地域診断ツールに関する文献が 6 件、「包括センター」を対象とした文献が 4 件であった。地域診断に関しては、教育や教育機関等に関係する文献が半数を占めており、地域診断が大学などの教育において重要視されていることがわかった。この背景には、2013 年に厚生労働省から出された「地域における保健師の保健活動に関する指針」の中で改めて地域診断の実施の重要性が指摘されたことが影響していると思われる。文献の中では、行政をはじめとする現場の保健師たちが地域診断の必要性を感じながらも未だに十分な実施がなされていないとの指摘もみられた。

(2) 実証研究

対象者の概要：

協力が得られた保健師 8 名、看護師 5 名のうち、保健師は全員女性であり、看護師は男性 1

第 76 回日本公衆衛生学会、鹿児島、2017.

杉澤秀博, 社会関係と健康に関する研究の展開と課題、第 75 回日本公衆衛生学会、大阪、2016.

松永洋子, 落合佳子, 桑野美香子、地域包括支援センターの 3 職種の専門性に関する文献検討、第 21 回日本在宅ケア学会学術集会、東京、2016.

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：杉澤 秀博

ローマ字氏名：(SUGISAWA、hidehiro)

所属研究機関名：桜美林大学

部局名：大学院老年学研究科

職名：教授

研究者番号(8桁)：60201571

研究分担者氏名：西岡 笑子

ローマ字氏名：(NISHIOKA、emiko)

所属研究機関名：防衛医科大学校

部局名：医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究・その他

職名：教授

研究者番号(8桁)：70550797

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。